

表2 H25年度活動実績表

2013年度最終実績	修了学生数				その他(学部、高専等)	参加大学数		連携企業数		FD参加者数
	合計	連携大学	参加大学	社会人		述べ数	分野内重複を除く	述べ数	分野内重複を除く	
分野全体	305	210	94	1	47	47	47	93	91	134
H25年度成果報告書記載の数字	309					47		87		
クラウドコンピューティング分野	105	77	28	0	1	11	11	28	27	29
大阪大学		13			0					
神戸大学	39	8	18	0	0	8		8		17
東京大学	23	23	0	0	0	0				6
東京工業大学	35	25	10	0	1	3		15		4
九州工業大学	8	8	0	0	0	0		5		2
セキュリティ分野	65	55	10	0	0	4	4	9	9	9
情報セキュリティ大学院大学		20			0					9
東北大学		9			0					
北陸先端科学技術大学院大学	65	5	10	0	0	4		9		
奈良先端科学技術大学院大学		4			0					
慶應義塾大学		17			0					
組込みシステム分野	65	22	43	0	45	25	25	33	32	53
九州大学	35	16	19	0	43	12		3		25
名古屋大学	30	6	24	0	2	13		30		28
ビジネスアプリケーション分野	70	56	13	1	1	7	7	23	23	43
筑波大学	38	34	4	0	0	5		10		25
公立はこだて未来大学	13	8	5	0	0	1		11		7
産業技術大学院大学	19	14	4	1	1	1		2		11

※その他:M1、M2以外(学部、博士後期、社会人、専門学校生など)

社会人は参加大学修了者数に算入

表3 H26年度活動実績表

2014年度実績	修了予定学生数				内ハイブリッド人材数	その他(学部、高専等)	参加大学数		連携企業数		FD参加者	参加教員
	合計	連携大学	参加大学	社会人			述べ数	分野内重複を除く	述べ数	分野内重複を除く		
分野全体	461	269	176	16	31	46	86	81	110	107	165	319
クラウドコンピューティング分野	141	90	49	2	5	2	21	19	38	36	39	105
大阪大学		12				0						
神戸大学	41	8	21	0	1	0	8		10		23	37
東京大学	27	27	0	0	0	0					6	17
東京工業大学	60	30	28	2	4	2	10		21		9	37
九州工業大学	13	13	0	0	0	0	3		7		1	14
セキュリティ分野	84	67	17	0	11	0	12	12	10	10	17	72
情報セキュリティ大学院大学		19			2	0						
東北大学		17			1	0						
北陸先端科学技術大学院大学	84	5	17	0	0	0	12		10		17	72
奈良先端科学技術大学院大学		7			0	0						
慶應義塾大学		19			8	0						
組込みシステム分野	114	44	70	0	8	43	34	31	39	38	49	75
九州大学	62	32	30	0	7	33	14		4		25	41
名古屋大学	52	12	40	0	1	10	20		35		24	34
ビジネスアプリケーション分野	122	68	40	14	7	1	19	19	23	23	60	67
筑波大学	72	48	23	1	5	0	14		10		39	34
公立はこだて未来大学	23	12	11	0	0	0	3		11		18	22
産業技術大学院大学	27	8	6	13	2	1	2		2		3	11

※その他:M1、M2以外(学部、博士後期、社会人、専門学校生など)

社会人は、参加大学修了者数として算入

表 4 H27 年度活動実績表（見込み）

平成27年度(2015年度)予想	修了予定学生数				内ハイブリッド 人材数	その他(学部・高 専等)※1	参加大学数		連携企業数		FD参加者	参加教員
	合計	連携大学	参加大学	社会人			送べ数	分野内重複を除く	送べ数	分野内重複を除く		
分野全体	480	242	224	14	27	54	102	96	131	125	215	336
クラウドコンピューティング分野	98	52	41	5	1	1	19	18	43	39	54	101
大阪大学	39	11	23	0	0	0	8		12		27	36
神戸大学		5				0						
東京大学	16	16	0	0	0	0	8		22		7	18
東京工業大学	39	17	17	5	0	1					16	34
九州工業大学	4	3	1	0	1	0	3		9		4	13
セキュリティ分野	113	71	42	0	8	0	19	19	14	14	25	70
情報セキュリティ大学院大学												
東北大学												
北陸先端科学技術大学院大学	113	71	42	0	8※2	0	19		14		25	70
奈良先端科学技術大学院大学												
慶應義塾大学												
組み込みシステム分野	135	43	92	0	16	51	39	35	44	43	63	82
九州大学	73	34	39	0	11	45		16	4		17	36
名古屋大学	62	9	53	0	5	6		23	40		46	46
ビジネスアプリケーション分野	134	76	49	9	2	2	25	24	30	29	73	83
筑波大学	80	50	30	0	0	2		20	12		22	44
公立ほこだて未来大学	29	13	16	0	0	0		3	16		25	25
産業技術大学院大学	25	13	3	9	2	0		2	2		26	14

※1 その他:M1、M2以外(学部、博士後期、専門学校生など)

※2 出身学部・学科が非情報系の場合をハイブリッド人材と定義

### 3.1.4 実践力評価

図 11 は、コンピテンシー（行動特性）を評価する PROG テストを enPiT 受講前後で実施したときの得点の差を示している。受講後の得点が向上していることが統計的にも有意ある結果として検定されている。図 12 は、全国の理科系大学院生と enPiT 受講生のテスト結果を対比したグラフである。これも、enPiT 受講生の方が高い得点を獲得していて、実践力が向上していることの証左となっている。

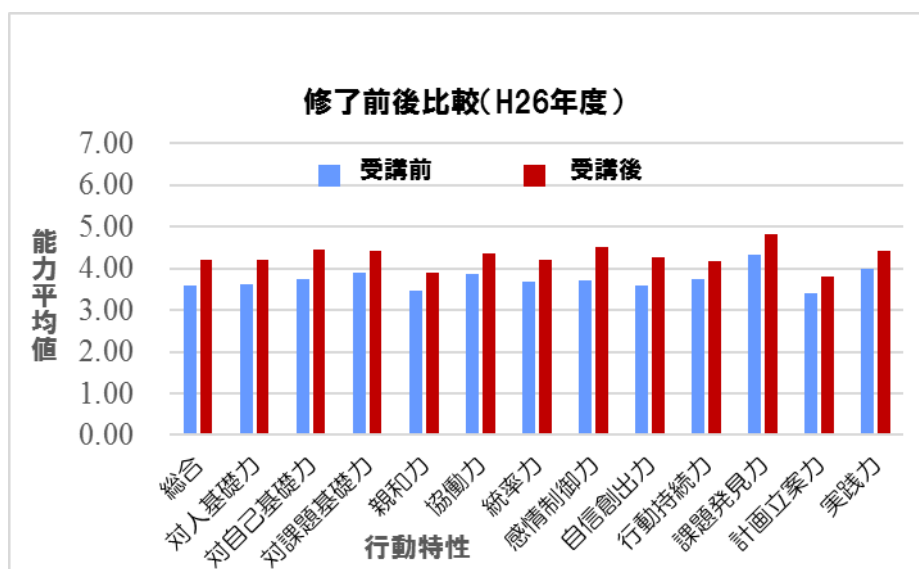


図 11 行動特性評価（enPiT 受講前後での能力比較）

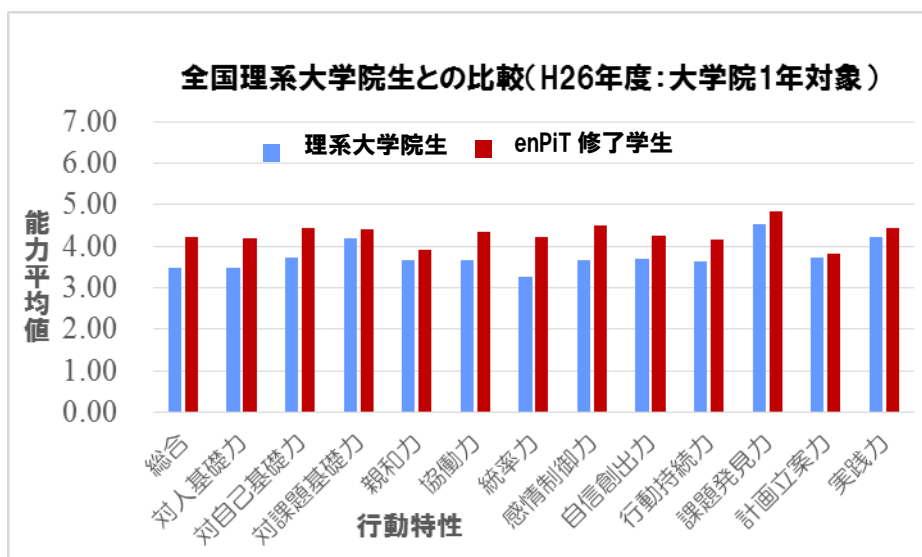


図 12 行動特性評価（全国理科系大学院生との比較）

### 3.2 広報活動

実践的な情報教育を全国に普及して enPiT の認知度を向上させ、本活動への参加を促すため、広報 WG が実施する以下のような広報活動を運営拠点は支援する。

- ・ Web サイトの運用（図 13：第 1 期 enPiT の Web サイト例）
- ・ 活動を紹介するニュースレターの発行（図 14：第 1 期 enPiT のニュースレター例）
- ・ Facebook などの SNS の運用
- ・ 各種アンケートの実施 など



図 13 enPiT Web サイト



**enPiT news** vol.7  
 分都庁学 情報系大学院からの協賛ネットワークの構築  
 分野・地域を超えた実務的情報教育協働ネットワーク

enPiT年度2年連続49部合計で500名を超える学生が参加しました。参加大学院、連携企業数も年々増加しており、充実した教育が行われています。教育現場からの生の声をとお聞かせします。

**現場からの声 enPiTはここがイイ!**  
 enPiT受講生と教員に聞いてみました



**enPiT@Cloud クラウドコンピューティング分野**  
 大阪大学大学院 大学院 大学院  
**チームで学ぶ、学年・地域を超えた交流**

**—enPiTへの期待は?—**

- 1. 最新の技術に触れたい。自分たちチームで取り組むことで、知識やスキルを身につけたい。
- 2. 現場で学ぶ。現場で学ぶことで、実践的な知識やスキルを身につけたい。
- 3. チームで学ぶ。チームで学ぶことで、コミュニケーション能力を身につけたい。
- 4. 学年・地域を超えた交流。学年・地域を超えた交流を通して、幅広い分野の知識やスキルを身につけたい。

**—enPiTの魅力を?—**

- 1. 最新の技術に触れたい。自分たちチームで取り組むことで、知識やスキルを身につけたい。
- 2. 現場で学ぶ。現場で学ぶことで、実践的な知識やスキルを身につけたい。
- 3. チームで学ぶ。チームで学ぶことで、コミュニケーション能力を身につけたい。
- 4. 学年・地域を超えた交流。学年・地域を超えた交流を通して、幅広い分野の知識やスキルを身につけたい。



**enPiT news** vol.8  
 分都庁学 情報系大学院からの協賛ネットワークの構築  
 分野・地域を超えた実務的情報教育協働ネットワーク

**enPiTの短期集中合宿**  
 チーム活動の真実を学ぶ絶好の機会に

短期集中合宿は今年も好評のうちに開催されました。2泊3日までの集中の集まりも活発に、授業も受けました。実務的知識やスキルを身につけたいという思い、現場での学び、チーム活動の真実を学ぶ絶好の機会に、実践力アップを図りたいという思い、4泊5日という長期の集まりも受けました。

**enPiT@Cloud クラウドコンピューティング分野**  
 チーム開発の本質、楽しさを学ぶ絶好の機会に

**—enPiTの魅力を?—**

- 1. チーム開発の本質、楽しさを学ぶ絶好の機会に。
- 2. チーム活動の真実を学ぶ絶好の機会に。
- 3. チーム開発の本質、楽しさを学ぶ絶好の機会に。
- 4. チーム活動の真実を学ぶ絶好の機会に。

**Cloud Spiral 2017の開催**

前年開催された「enPiT@Cloud」の開催は、大阪大学大学院からの協賛ネットワークの構築、分野・地域を超えた実務的情報教育協働ネットワークの構築、実践力アップを図りたいという思い、4泊5日という長期の集まりも受けました。

**—enPiTへの期待は?—**

- 1. チーム開発の本質、楽しさを学ぶ絶好の機会に。
- 2. チーム活動の真実を学ぶ絶好の機会に。
- 3. チーム開発の本質、楽しさを学ぶ絶好の機会に。
- 4. チーム活動の真実を学ぶ絶好の機会に。

図 14 ニュースレター

## 4 学内の実施体制

図 15 に示すように運営拠点（大阪大学）は、学長のもと、大学院情報科学研究科が本事業の運営に当たる。その運営に際しては、全学の専門部門から本事業の教育カリキュラムの内容、FD の進め方、契約の観点、産学連携などのアドバイスを受ける。また、対象が学部生であるので、受講学生の所属学部（例えば、工学部、基礎工学部など）とも連携して運営を行う。具体的には、図 15 に示すような学内支援会議を発足させ、学内連携を密に図りながら運営を行うこととする。

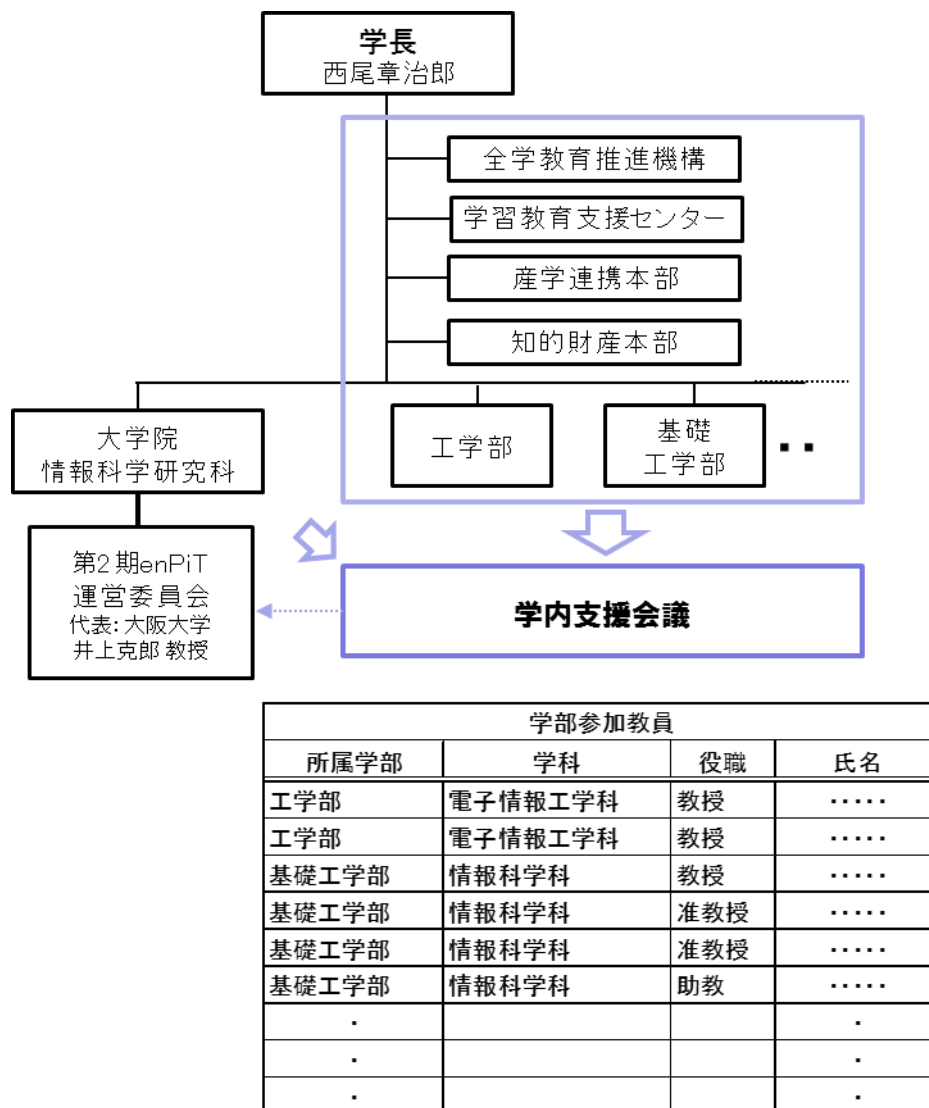


図 15 運営拠点内の実施体制

## 5 補助事業の年度別実施計画

平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 10月～3月 運営委員会実施(2回程度), 連携大学・企業との協定締結, 計測指標の詳細決定</li> <li>② 10月～12月 各分野の基礎知識の明確化</li> <li>③ 12月～2月 短期集中合宿, PBL の内容詳細検討</li> <li>④ 12月～3月 授業試行</li> <li>⑤ 12月～3月 教材開発・環境整備</li> <li>⑥ 3月 シンポジウム, 外部評価委員会の実施, 広報準備, 報告書作成</li> </ul>
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月～3月 運営委員会の実施(4回), 幹事会(年10回程度), 各WG(年4回程度)</li> <li>② 4月～7月 各分野での参加学生の公募・選別</li> <li>③ 6月～7月 第1回活動指標調査(年度当初の参加学生数など)</li> <li>④ 7月～9月 短期集中合宿実施</li> <li>⑤ 10月 第2回活動指標調査(夏季合宿終了時点での修了者見込みなど)</li> <li>⑥ 10月～1月 フォローアップミーティング実施</li> <li>⑦ 12月～1月 第3回活動指標調査(報告書作成に向けた調査, 参加大学・連携企業・参加教員数など確定)</li> <li>⑧ 9月～3月 教材洗練</li> <li>⑨ 3月 第1期修了生の輩出, 外部評価委員会, シンポジウム, 報告書作成</li> <li>⑩ 3月～4月 第4回活動指標調査(修了者数の確定)</li> </ul>
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月～3月 運営委員会の実施(4回), 幹事会(年10回程度), 各WG(年4回程度)</li> <li>② 4月～7月 各分野での参加学生の公募・選別</li> <li>③ 6月～7月 第1回活動指標調査(年度当初の参加学生数など)</li> <li>④ 7月～9月 短期集中合宿実施</li> <li>⑤ 10月 第2回活動指標調査(夏季合宿終了時点での修了者見込みなど)</li> <li>⑥ 10月～1月 フォローアップミーティング実施</li> <li>⑦ 12月～1月 第3回活動指標調査(報告書作成に向けた調査, 参加大学・連携企業・参加教員数など確定)</li> <li>⑧ 3月 第2期修了生の輩出, 外部評価委員会, シンポジウム, 報告書作成</li> <li>⑨ 3月～4月 第4回活動指標調査(修了者数の確定)</li> </ul>
平成 31 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月～3月 運営委員会の実施(4回), 幹事会(年10回程度), 各WG(年4回程度)</li> <li>② 4月～7月 各分野での参加学生の公募・選別</li> <li>③ 6月～7月 第1回活動指標調査(年度当初の参加学生数など)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 7月～9月 短期集中合宿実施</li> <li>⑤ 10月 第2回活動指標調査（夏季合宿終了時点での修了者見込みなど）</li> <li>⑥ 10月～1月 フォローアップミーティングの実施</li> <li>⑦ 12月～1月 第3回活動指標調査（報告書作成に向けた調査, 参加大学・連携企業・参加教員数など確定）</li> <li>⑧ 3月 第3期修了生の輩出, 外部評価委員会, シンポジウム, 報告書作成</li> <li>⑨ 3月～4月 第4回活動指標調査（修了者数の確定）</li> </ul>
平成32年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月～3月 運営委員会の実施（4回）, 幹事会（年10回程度）, 各WG（年4回程度）</li> <li>② 4月～7月 各分野での参加学生の公募・選別</li> <li>③ 6月～7月 第1回活動指標調査（年度当初の参加学生数など）</li> <li>④ 7月～9月 短期集中合宿実施</li> <li>⑤ 10月 第2回活動指標調査（夏季合宿終了時点での修了者見込みなど）</li> <li>⑥ 10月～1月 フォローアップミーティング実施</li> <li>⑦ 12月～1月 第3回活動指標調査（報告書作成に向けた調査, 参加大学・連携企業・参加教員数など確定）</li> <li>⑧ 8月～3月 教材の一般教材化と普及活動</li> <li>⑨ 3月 第4期修了生の輩出, 外部評価委員会, シンポジウム, 最終報告書作成. 第4回活動指標調査（修了者数の確定）</li> </ul>